

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年(平成15年)2月25日号 No.1253

目次

スラヴネフチの民営化の背後にあるもの	坂口 泉 1
エトセトラ	9
『調査月報』最新号のお知らせ / 9	
モスクワ・メルマガNo.13のお知らせ / 10	
日本カザフスタン合同会議の報告書 / 10	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	10
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	10

スラヴネフチの民営化の背後にあるもの

はじめに

2002年末にロシアの国営石油会社「スラヴネフチ」の民営化が実施され、株式の約76%が18億6,000万ドルで落札された。これは、スヴァジインベストに次ぐ大規模民営化であり、これで2003年の対外債務返済の目処がたったとの見解をロシア政府サイドは示している。

正直に告白すれば、筆者はこの民営化には全く関心がなく、ほとんどトレースをしていなかった。スラヴネフチにおいては、従来よりアブラモビッチ率いるシブネフチの影響力が強く、シブネフチが落札するのは確実だと考えていたからである(実際は、シブネフチとチュメニ石油会社が共同で落札したのだが)。ただ、ある必要に迫られて当該の民営化の経緯を少し調べたところ、その背景は筆者が考えていたほど単純なものではないことがわかった。興味本位に流されやすいテーマなのでレポートにすることは躊躇されたが、ロシアのビジネス環境を評価する上で看過することができない問題も内包しているように思われたので、敢えてレポートとしてまとめてみた。

なお、同社の民営化に関しては謎の部分も多く、本レポートの記述の中には筆者の憶測が数多く含まれていることを予めお断りしておく。

(スラヴネフチのHPは <http://www.slavneft.ru>)